

縁を生かす人生の方程式

新年度を迎え、早一ヶ月が経過しました。新たな環境で新年度を迎えた方は勿論のこと、定年を迎え環境に変化の無い方も、ただ漠然と日々を過ごすような勿体ない人生の時間を費やしては、命のバトンを繋いでくれた親先祖に申し訳ないという自覚を持たねばなりません。では、浪費ではない時間とは、どういう時間をいうのでしょうか？この問いは、何の為に生まれ、生きているのか？という人生における大問題に対する問いでもあります。仏教的な見地に立つて考えると、「**恩ある人に報いる生き方をしなさい(報恩)**」、つまり恩に報いる生き方を指すのが仏教の目標であります。人は一人では生きていけません。命を頂いてからは、両親に無償の愛情を注いで頂き、家族や親戚、広い意味で知人友人に至るまで、微に入り細に命を育んで頂いております。そういった恩の一つ一つに報いていく生き方が何より大切なのだと教えられます。恩に報いる為には、まずはその恩に気付くことから始まります。そもそも「**恩**」と

いう字は、「**因(原因)**」も「**心**」でもあります。今この私が存在しているのは誰のお陰なのか？目に見えない色々なものを含めて、自分を支えて下さっているという事に気付いていくことが、恩を知るという事になると思います。人と人との結びつきや人と物とのつながり等、人の力を超えた不思議な力を「**縁**」といいます。そして人と人の関係であれば、お互いに支え合う「**縁**」の中でこそ、はじめて人生における大輪の花を咲かせていく事ができるものと思います。

「**縁**」というのは理屈では説明のつかない、人智では計り知れない力(作用)と言えるものの、しかし一方では「**類は友を呼ぶ**」と言うように、実は自分自身で引き寄せていくものなのかも知れないと思います。

【人生の方程式】

平成二十二(2010)年二月、倒産確定と言われていた日本航空(JAL)の会長に就任したのは、言わずと知れた**稲盛和夫氏**でありました。稲盛氏は京セラや、現KDDIを創業した超一流の経営者です。彼の著書を読み、彼の講演会を聴講する中で、私が一番感銘を受けたのは、**稲盛氏が考案した『人生の方程式』**というものです。

式』というものです。

《**人生・仕事の結果**＝**考え方**×**熱意**×**能力**》これが、その方程式です。ポイントとなるのが、「**考え方**と**熱意**と**能力**」を、それぞれプラスしていくのではなく、掛け算にして計算したところが、

稲盛氏が超一流と言われる所以でしょう。順を追って解説すると、「**能力**」とは頭脳のみならず、健康や運動神経も含みますが、多分に先天的なものです。また「**熱意**」は、自分の意志で決められるものです。そして、この「**能力**」と「**熱意**」はそれぞれ0点から100点までであると考えます。つまり努力を怠った人よりも、それなりの能力があつて、誰よりも情熱を燃やして努力した人の方が、はるかに素晴らしい結果を遺すことが出来るという真理です。人一倍努力し、勉強し、経験を積んだ人が、努力しない人に勝るのは至極当たり前のことです。ここまでは理屈で分かるレベルだと思えますが、これに「**考え方**」が加わります。この「**考え方**」が鍵となります。「**考え方**」とは、人間としての生きる姿勢であり、**マイナス**100点〜**プラス**100点までであると考えます。世の中を恨み、まともな生き様を否定するような生き方をすれば、**マイナス**に傾き、人生や仕事の結果は、

能力があればあるだけ、熱意が強ければ強いほど、大きな**マイナス**となります。逆に、世の**為**、人の**為**に尽くす生き方を「**考え方**」の**指針**に置いて行動した場合、**プラス**に転じ、結果的に「**人生・仕事の結果**」が善きものになるといいます。

つまり「**熱意**」があつて、「**能力**」も人一倍秀でるものを持つていても、「**考え方**」が利己的で**マイナス**ならば、掛け算ですから、結果的に「**人生・仕事の結果**」が大きく**マイナス**に転じてしまうという事になります。この稲盛氏が提唱する『**人生の方程式**』について、私も全くの同感です。

戦後最悪の無差別テロといわれる「**地下鉄サリン事件**」で、犯行を行ったオウム真理教の信者達は、誰もが学歴優秀な優等生でした。しかし「**能力**」と「**熱意**」が高くて、最後の「**考え方**」がズレていた為に、**教祖・麻原彰晃**を筆頭に十三名の死刑判決が確定し、多数のオウム信者が逮捕されるなど、社会を震撼させました。犯罪者となった彼らは、家族の崩壊を招き、転落人生に転じてしまいました。「**考え方(人生哲学)**」がいかに重要であるか、私達は善き

考え方を、自分自身に擦り込む努力をしなければならぬでしょう。利己的にならず、人の為に良かれと思う言動や行動を心掛けることが大切です。類は友を呼び、縁が深まります。周囲に集う知人友人は自分の合わせ鏡だと確信する時、これまでの見えなかつた自分自身が見えてくるはずで、どの様な考え方のもと、どんな夢や目標を持つのか、そして周囲に集う知人友人と、どの様な縁を結ぶかは、私達の人生における一生の課題でもあります。

「一国は一人を以て栄え、一人を以て滅ぶ」と言います。つまり、リーダーによって組織は発展したり衰退したりするのです。いい組織には必ず素晴らしいリーダーがいます。JALを復活させた稲盛氏がそうだったように、立派なリーダーは、自分の組織の目的を明確にし、更にその目的に向かう為の価値観を部下と共有し、集団を引っ張っていきます。明治維新の精神的指導者であった長州藩の吉田松陰氏は「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし」と喝破されました。確かに、夢や目

標を持つことで、そこに行き着く為の計画ができ、また実行に移すことができます。夢や目標を持たないで、ただ漠然と日々の時間が過ぎ去っていくよりも、心に秘めた何か目指すものを持つているの方が、充実した人生を歩めるといふ事になるでしょう。

【仮想ではない実践を】

反日教育と反日運動に余念の無い、憎い韓国ではありますが、一つだけ参考になる事例がありましたのでご紹介します。

韓国では平成八（一九九六）年からナショナル・カリキュラムの中に奉仕活動が採り入れられ、学校教育の「特別活動領域」で必修化されています。この活動は「自願奉仕」と呼ばれ、その意味は「他人に仕え奉ることを自ら願って行う活動」なのだそう。いわゆる利他の心を養う活動です。活動内容は、人手不足の公共施設や農漁村などでの手伝い、老人ホームや障害者施設への慰問活動、交通安全や環境保全などのキャンペーン活動、献血や災害地支援などの慈善・救護活動、文化財保護活動、地域社会の実態調査やイベント支援など。なお、教育課程に定められた年間の勸奨時間数は、小学校の一

く四年は七時間以上、五く六年で十時間以上。これが中学校の場合は十八時間以上、高校では二十時間以上となっているようです。子供って理屈じゃないと思います。はじめは嫌がっていても、仮想的（バーチャル）ではない本物（リアル）を体験すれば何かを掴むものなのだと思います。ただ一方で、奉仕活動は自発的にやるものなのだから、一方的に強制すべきではないという反論も聞こえてきそうですが、私は強制でちつとも構わないと思います。

第一、義務教育の存在自体が強制じゃありませんか。カリキュラムも特別活動も強制です。韓国でも導入に際してこの種の議論が起きた様ですが、教えられもしなければ体験もしないのに奉仕の意識が芽生えるわけがないと思います。体験の結果、熟成されて育つものだと考えます。恩に報いる生き方の切っ掛けをつくる貴重な体験の機会を、大人が提供する努力を惜しんではならないと思います。ボタン一つで出来る便利な時代だからこそ、恩に気づき、恩に報いる生き方を、意識して行わなければならないでしょう。世の為、人の為という、人生の方程式でいうところの「考え方」を整え、善き「縁」を生かし、素晴らしい人生の結果を構築し

ていきたいものです。

合掌 副住職 谷川寛敬

